佐原の町並み かわら版

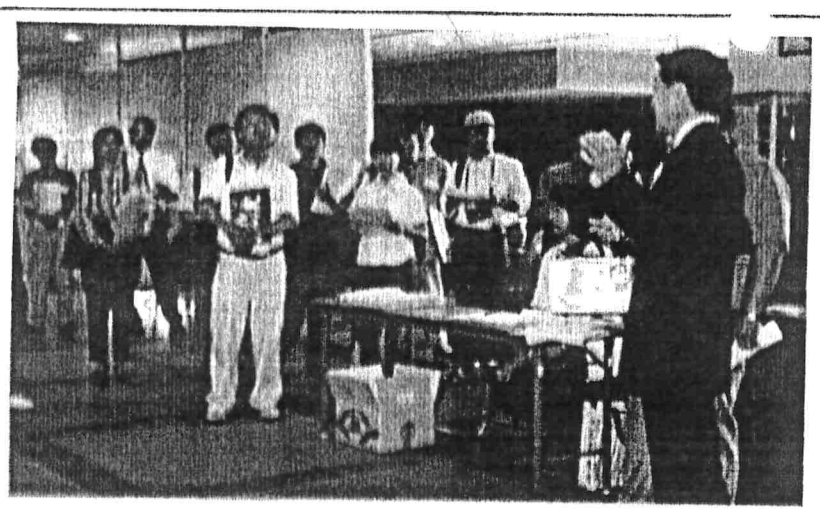
第16号
平成10年10月
発行　小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

二十一世紀の歴史文化環境を語る
全国町並みゼミ分科会　佐原で開催
―改めて見直された佐原の町並み―

第二十一回全国町並みゼミ東京大会が、九月十八日(金)から東京をメイン会場に開催された。

翌日十九日(土)は、都内各所と横浜、川越、そして佐原の周辺都市など十三会場で分科会が開催され、全国からの参加者がそれぞれ興味ある会場へ分散した。

当佐原では、五十余名の参加者を迎え、町並みを考える会、案内ボランティアが協力し、午前中の町並み探索、午後の分科会、そして交流会の構成で行われた。


全国各地より集まった参加者・加瀬代表(考える会)の説明を聞く

伝建選定までの成り立ちを聞きながら町並み探索

第一部町並み探索

十時の電車で、東京会場からの参加者が中央公民館に集合。町並みを考える会の加瀬代表世話人の歓迎の言葉に、佐原のイメージを湧かせ、四班に別れ、町並み案内ボランティアの方々の案内で小野川へ繰り出した。

商家の造り、護岸や柳の木の管理など、各人の興味や抱える問題等を話ながら町を探索。

川のながれに相まった町並みへの驚き、木造町家や倉などが連なる商家町に、自分たちの町とダブらせての感激、しきりでした。

第二部町並み分科会

大きな梁が縦横に架け渡された屋根組の倉。修復が終わったばかりの「正上」さんの倉で午後一時に開会しました。

赤・青・黄の小旗で意思表示する参加者

伝建地区制度の可能性―成果と課題―というテーマで、関西福祉大学の三村教授の基調講演があった。次に九州芸工大西山助教授ほか四名のパネラーにより、町並み、まちづくり、地域の活性化等について、活発な意見交換がされた。

この間、参加者には、三本の旗(赤・青・黄色)を持って自分の意志表示できる設問が出され、会場は大変活気づいていた。事例

◎伝建地区から来た。赤　29人

伝建地区を目指している。青13人

建築関係者、学生等。黄　12人。

また、興味深かったのは、伝建指定は、観光に貢献している・関係ない・どちらともいえない、など様々な結果が出た。会場のひとりひとりが参加できた分科会でした。

分科会でのまとめ事項

町並みの三つの価値

○文化財としての価値

○生活環境としての価値

○観光資源としての価値

の特徴を生かした整備を進め、俗っぽくならないように注意する。

最後に、佐原はここ数年で質の高い修理が行われ、町が変わった。伝建地区の成果を見るのに最適な地として、会場にしたが、参加者に有意義な分科会であったようで大変嬉しいというコーディネーターの言葉で閉会。

第三部参加者交流会

分科会終了後、忠敬茶屋で交流会が行われた。

勇壮な笛太鼓の響く東関戸下座連による佐原ばやしの演奏に合わせ、姫の会の女衆の粋な手踊りを披露し、会場を盛り上げた。

交流会で佐原囃子・手踊り披露

南は九州、四国、北は秋田からと遠方の方々と話を交わし、分科会の成功を喜び合い、それぞれのまちづくりの意欲を高め合う交流会でした。

三菱館の壁面変わる
各委員会活動活発に

三菱館に入ると、左側の壁面に「考える会」の足跡がわかる活動の沿革がまとめられました。これは町づくり委員会が中心となり、三菱館運営委員会の協力による活動です。

この他にも各委員会は、例会を開き活発に活動をしています。

ぜひ、ご覧ください。

佐原に寄せられた声

大会終了後、参加者からの御礼の電話、手紙等がありました。

・町並み案内活動に関心しました。観光地では、物を売るための案内や有料案内が多い。考える会や町並み案内も佐原ではボランティアなので、観光客に町の印象を大変良くします。(文化庁　K氏)

・佐原へ来る前に勉強してきた。町の宣伝は大げさに書くので、実際はその半分だろうと思っていた。聞くと見るとは大違いで、江戸から昭和の建物が残る町は滅多にありません。びっくりしました。(名古屋市　N氏)

・倉でのゼミに感動しました。何か大変落ち着きました。学校の木の椅子が良かった。大切に使ってください。(H氏ほか四名)

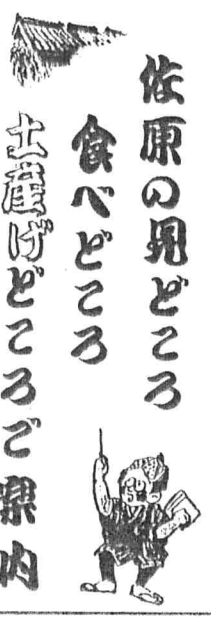
・多数の観光客が来ると、町中が自然に俗化します。佐原本来の姿を失わないで下さい。(京都M氏)

・大変良い町です。保存するにふさわしい町です。ガンバッテください。(犬山市　O氏)

「すみません、ところてんください。」と大汗を流しながら中年のご婦人が入って来ました。

「ここは観光案内所なんですけど・・・。」(唖然)

ガラス戸に貼ってあった《見どころ》《食べどころ》《土産どころ》の案内の文字が【ところてん】に見えたとのこと。

「お前は本当にくいしんぼうなんだから・・・。」とご主人にからかわれ、みんなで大爆笑！

真夏日を思わせるある日のできごとでした。